

平成29年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492600471	事業の開始年月日	平成24年11月1日
		指定年月日	平成24年11月1日
法人名	株式会社まちづくり公社		
事業所名	グループホーム 東林間 輝		
所在地	252-0311) 相模原市南区東林間5-6-21		
サービス種別 定員等	☐ 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
	☒ 認知症対応型共同生活介護	宿泊定員	名
		定員計	18 名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	平成30年1月10日	評価結果 市町村受理日	平成30年4月10日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokanri.nsf/pSearch3?Open
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1. 利用者が住みなれた街で生活できるような介護を目指す
2. 利用者が満足して生活できる介護サービスを目指す
3. 明るく楽しい環境づくりを目指す
4. ボランティアの協力でカラオケを週に1回ほど実施している
5. イベントは毎週実施している

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵜沼橋1-2-7 湘南リハウスビル3階		
訪問調査日	平成30年2月22日	評価機関 評価決定日	平成30年3月30日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、小田急江ノ島線の東林間駅から目の前の商店街を通り抜けた、徒歩1分の交通の便の良い場所にあります。家族にとっては訪問しやすい事業所です。事業所の窓から東林間駅のホームが見えるほど駅の近くで、線路際にはありますが、防音設備のため電車の音は全く気になりません。1階が小規模多機能、2階・3階がグループホームです。屋上からは季節になると線路の向こう側にある大きな病院の見事な桜並木を見ることができます。

＜優れている点＞

東林間自治会に加入し、商店街の中に事業所があるのでさらに東林間商店振興組合にも加入しています。事業所の1階に「サロン輝」を月に2回開設し、介護保険や介護の勉強会、クラフト作り教室、カラオケ教室など地域の人も利用者と一緒に参加し、地域におけるケアの拠点として交流しています。毎年1階のリビングで開かれる商店街の「阿波踊り」の催しの中で、近隣の高校生による歌と踊りで訴える「振込詐欺防止のキャンペーン」に協力しています。年に2回、業者による事業所内のクリーニングや毎日3回の手すり拭きなど清潔に努めています。各ユニットの出入り口には、除菌装置を設置してインフルエンザの発生予防に配慮しています。

＜工夫点＞

地域包括支援センターの職員や自治会の役員、民生委員など外部の人も参加する運営推進会議の日に家族会も開催しています。利用者の日常生活をスライドで紹介し参加者から喜ばれています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	グループホーム 東林間 輝
ユニット名	2F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
		○	2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践にっている。	輝の理念 1. あなたの笑顔がみたいから 2. 真心と安心のある介護をめざして 3. 地域に根ざす家族愛	リビングに元書道の先生だった利用者が書いた力強い理念が掲示してあります。理念を実践につなげるため、施設長は16項目の「利用者に接する姿勢」という行動指針を作成しています。職員はその「姿勢」に問いかけながら日々のケアを実践しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	東林間自治会加入、東林間商店振興組合加入。サロン輝をオープンして地域の方々が自由参加して交流を深めている	地域の一員として東林間自治会と地元の東林間商店街振興組合に参加しています。通りに面した掲示板には毎月開催する「サロン輝」の福祉テーマを紹介し、地域の住民に参加を呼びかけています。地域の町のクリーン作戦に参加しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献	地域で開催するボランティアなどに参加したり、買い物で会話したり又散歩時のあいさつなどして、友達関係が生まれている			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	二ヶ月に1回推進会議を実施して施設内の報告を行い利用者の生活を把握していただいています。その後意見を聞き、サービスの向上に努める。	年6回、地域包括支援センターの職員や自治会・振興組合・老人会などの役員、民生委員、家族などが参加しています。事業所からスライドによる利用者の日常生活の紹介や活動報告、行事予定など報告し、参加者とは地域の行事などについての意見交換をしています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	介護保険課及び高齢者相談課、生活支援課等の行政窓口との連絡を密にしている	市の介護保険課や高齢者相談課、生活支援課などと認定調査・補助金の問い合わせ、生活保護などそれぞれのテーマに応じて相談や連絡を図っています。行政の主催する研修会や認知症サポートセンターなどに参加して行政と情報交換しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員研修で身体拘束について理解を深め、身体拘束しないケアに努めている。玄関は安全のため施錠するがすぐ開錠できる構造のものを設置している。	利用者の目線に立ち戻るという施設長の考えが全職員に浸透しています。身体拘束防止や声掛けなどの接遇ケアを盛り込んだ「利用者に接する姿勢」を基にフロア会議やショートカンファレンスの中で常に話し合い、日々の介護に対応しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員研修で虐待防止を学び、注意を払っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	社内研修で職員に指導している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用者、家族に対し十分な説明を行い、契約している。改定時には家族会の席で説明し、欠席者には文章でお知らせしている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会は年1回行っている。その席で意見を聞き改善すべき点は改善する。また計画作成者が家族と面談又は電話で説明して家族の意見を取り入れている	年1回家族会を開催し、利用者の日常生活をスライドや音楽を入れたパワーポイントで紹介しながら家族から要望や提案などの把握をしています。毎月、計画作成担当者でもある管理者は医療面だけでなく生活の様子も報告しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	リーダー会議、フロアー会議などで職員との意見、提案を聞いている	施設長は常に現場に出て職員や利用者に声掛けし、意見や情報などを把握しています。日常の課題については申し送り時に情報交換しています。年度初めに職員は自己評価や今年の目標などを施設長や管理者に提出し、会社に対する提案などの意見交換をしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	有給休暇を全員が取得できる環境にしている。勤務状況の把握は一日一回は現場に入り確認する		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修に積極的に参加し、人材育成に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	グループホーム連絡会を3ヶ月に1回実施して、情報交換と質の向上に努める。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	計画作成者と介護職員リーダーが事前訪問をした際、本人の意向を確認し、要望に沿った介護に努めている。経過とともに改善すべき点あって希望に沿ったサービスに努める		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	計画作成者と介護職員リーダーが事前訪問をした際、家族の意向を確認し、要望に沿った介護に努めている。月日の経過と共に家族にも理解され、信頼が深まっている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	計画作成者と介護職員リーダーが事前訪問で情報収集した内容を活かし、介護サービスに反映させる。経過と共に改善すべき点は改善している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者の過ごしてきた環境をできるかぎり維持できるサービスに努めます		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族会や面会に来たとき、日常生活をみて頂き家族が安心して帰られるよう努力します		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人の希望があれば、買い物に付き添ったりして、馴染みの関係を絶たないよう協力している	施設長は利用者がこれまで育んできた人間関係や社会との交流関係などを断ち切らないように努めています。入居前に施設長や管理者は利用者の医療面だけでなく、想いや暮らし方、希望などの把握に努め支援しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	個性を活かして気の合った利用者たちが共同でものづくりなどして、チームワークに心がけている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	家族等からの相談がありますと、良く聞き取って最後の方向に向かって支援する		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者は歌の得意な人が多いため、皆で合唱したり、カラオケをして過ごしています。できるだけ本人の希望に沿ったサービスをしている	事前調査や日々の会話などから一人ひとりの思いや暮らし方などを把握しています。「できる事」や「したい事」の個別支援に努めています。洗濯物たたみや下膳など、持てる力を発揮して役割のある暮らしができるよう支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	各利用者の暮らしの希望、意向を把握して、職員が情報を共有して生活リズムが変わらぬように努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	健康体操又は散歩等で体力の維持に努めます		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	フロアー会議で本人の課題を話し合い、介護計画に反映させている	職員は「申し送りノート」や「医療連携ノート」などの記録から利用者一人ひとりの変化についてカンファレンスを行い、問題点や課題を確認しています。本人や家族の要望を確認し3ヶ月ごとに見直し、基本的には6ヶ月ごとに介護計画を更新しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎朝2F, 3F合同で引継ぎをして利用者の状況を報告します。ケアの違い等を検討して改善しています。その内容を引き継ぎノートに記録して全員が確認している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	フロアー会議で成果がでていますが、可能な限りニーズに対応する努力をし、もっと勉強し努力したい		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	花見や祭りなどのイベントに参加できるよう支援している。地域のボランティアの協力もあります。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月に2回往診医の診療を受けている	全員が事業所の往診医を選んでいきます。利用者一人ひとりに対して月2回の往診があり、医師や看護師は毎週来ています。歯科の往診もあり、往診医と良好な関係を築いています。異変の場合にも適切な対応が出来る体制となっています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護と情報は共有され、月2回の看護を受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携先の医療機関と入退院の情報交換を行い、情報を共有している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化や終末期については主治医の支援を頂き、早期に対応をしている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	対応手順書、緊急連絡網を作成して、定期訓練も実施している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	毎年、春、秋の2回訓練をしています。職員もそれぞれ対応ができるようになりました。	年2回、消防署員の立ち会いを含め、定期的に避難および消火訓練を実施しています。散歩時に挨拶し、地域の商店街の行事に参加したりして事業所の存在を認識してもらっています。、運営推進会議の場でも災害時協力の依頼をしています。	定期的に地震想定や消火・通報訓練を実施し、井戸や防火水槽を設置していますが、今後はさらに夜間想定訓練の実施と、飲料水や備蓄品およびチェックリストの再検討を期待します。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	輝としてのマニュアルを利用して入社時に研修をしている。接遇マニュアルを重視し、笑顔とハートのある介護を目指している	職員は利用者と日々接する中で、年長者と敬い、寄り添って気持ちを掬いあげるように努めています。自分がされて嫌なことはしないように、利用者の表情や仕草などから思いを汲み取り、一人ひとりに合った支援を心がけています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者に接する大事なことは利用者の考え、気持ち何を望んでるかを知ることです。職員はそこを支援しています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	笑顔と言葉使いを重視して同じ目線で話をすることを指導している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	お化粧や身だしなみの支援を行っている。理髪は2ヶ月に1回行っています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	準備、片付けは利用者と共にできるだけ行い、季節感のある献立を提供している	調理専門の職員が旬の食材を使った献立を考え、調理しています。苦手な食材の時は別メニューを提供しています。行事食や寿司職人を呼んで握ってもらったり、おやつと一緒に作ったりするなど、楽しく食事が出来るように努めています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	日々の日計表で水分摂取量のチェックを行い支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後は必ず口腔ケアを実施している。 また訪問歯科の利用もあり、十分気をつけている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	出来る限り自立した排泄が行えるようトイレまで手引き歩行で支援している。	排泄チェック表で個々の排泄パターンを把握し、定期的に声掛け誘導するなど、トイレでの排泄を支援しています。誘導の際には「トイレ」と言わずに暗号の言葉を使うなど、羞恥心にも配慮しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	消化のよい食事の提供、牛乳、ヨーグルトなどの提供、腹部マッサージなどで予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	本人の希望で入浴できるが、入浴日、時間は決めている	週2回の入浴を基本とした上で、曜日や時間は決めていません。利用者の体調や気分、天候や行事などを考慮して臨機応変に支援しています。1階の同法人運営の事業所のリフト浴を使用して介護度の高い利用者も入浴ができます。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	騒音など環境には十分気をくばり安心して安眠ができるように支援をしています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個々に薬箱をつくり、朝、昼、夕に分けて保管している。誤薬がないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	近隣の方たちのボランティアによって麻雀、将棋、クラフト、カラオケ等で楽しく過ごしている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	初詣、節分、花見、鯉幟、菖蒲、夏祭り、菊展などバスで出かけ鑑賞したり、おやつを戴いたりして楽しんでいます	気候や利用者の体調・希望に合わせ外出しています。季節に応じた花見に出かけたり、事業所の屋上で野菜を育てたり外気浴をするなど、外の風景や空気に触れて気分転換が出来るように努めています。家族との外出には、車いすを準備するなどして支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お小遣いは施設で管理しているが、本人と一緒に買い物に出かけている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話は施設の物を使用している。手紙、送りもの等も施設で手配している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	常に清潔を保ち季節感を採り入れて工夫している。手作りの作品を展示しています。	共有の空間はゆったりとして気になる臭いもなく、明るく清潔です。換気および手すりやトイレの清掃も日に3度は必ず行い、除菌装置を置くなど、感染予防に気をつけています。席の配置にも考慮し、利用者が快適に過ごすことが出来るように心がけています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブルの配置または花を飾るなどの環境美化に努めている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自分の使い慣れて家具や好みのものを活かして生活している	居室には、テレビ、ダンス、椅子をはじめ、家族の写真や位牌、小箱、ぬいぐるみ、テレビなど、好みの品々を自由に持ち込んでいます。気持ち落ち着くアロマを炊いたり、空気清浄機や加湿器を置いたり、利用者個々に合わせた居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手すりの設置、表示等は大きく表示を行い自立を支援している		

事業所名	グループホーム 東林間 輝
ユニット名	3F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
		○	2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	輝の理念 1. あなたの笑顔がみたいから 2. 真心と安心のある介護をめざして 3. 地域に根ざす家族愛		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	東林間自治会加入、東林間商店振興組合加入。サロン輝をオープンして地域の方々が自由参加して交流を深めている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域で開催するボランティアなどに参加したり、買い物で会話したり又散歩時のあいさつなどして、友達関係が生まれている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	二ヶ月に1回推進会議を実施して施設内の報告を行い利用者の生活を把握していただいています。その後意見を聞き、サービスの向上に努める。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	介護保険課及び高齢者相談課、生活支援課等の行政窓口との連絡を密にしている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員研修で身体拘束について理解を深め、身体拘束しないケアに努めている。玄関は安全のため施錠するがすぐ開錠できる構造のものを設置している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員研修で虐待防止を学び、注意を払っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	社内研修で職員に指導している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用者、家族に対し十分な説明を行い、契約している。改定時には家族会の席で説明し、欠席者には文章でお知らせしている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会は年1回行っている。その席で意見を聞き改善すべき点は改善する。また計画作成者が家族と面談又は電話で説明して家族の意見を取り入れている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	リーダー会議、フロアー会議などで職員との意見、提案を聞いている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	有給休暇を全員が取得できる環境にしている。勤務状況の把握は一日一回は現場に入り確認する		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修に積極的に参加し、人材育成に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	グループホーム連絡会を3ヶ月に1回実施して、情報交換と質の向上に努める。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	計画作成者と介護職員リーダーが事前訪問をした際、本人の意向を確認し、要望に沿った介護に努めている。経過とともに改善すべき点あって希望に沿ったサービスに努める		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	計画作成者と介護職員リーダーが事前訪問をした際、家族の意向を確認し、要望に沿った介護に努めている。月日の経過と共に家族にも理解され、信頼が深まっている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	計画作成者と介護職員リーダーが事前訪問で情報収集した内容を活かし、介護サービスに反映させる。経過と共に改善すべき点は改善している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者の過ごしてきた環境をできるかぎり維持できるサービスに努めます		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族会や面会に来たとき、日常生活をみて頂き家族が安心して帰られるよう努力します		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人の希望があれば、買い物に付き添ったりして、馴染みの関係を絶たないよう協力している		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	個性を活かして気の合った利用者たちが共同でものづくりなどして、チームワークに心がけている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	家族等からの相談がありますと、良く聞き取って最後の方向に向かって支援する		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者は歌の得意な人が多いため、皆で合唱したり、カラオケをして過ごしています。できるだけ本人の希望に沿ったサービスをしている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	各利用者の暮らしの希望、意向を把握して、職員が情報を共有して生活リズムが変わらぬように努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	健康体操又は散歩等で体力の維持に努めます		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	フロアー会議で本人の課題を話し合い、介護計画に反映させている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎朝2F, 3F合同で引継ぎをして利用者の状況を報告します。ケアの違い等を検討して改善しています。その内容を引き継ぎノートに記録して全員が確認している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	フロアー会議で成果がでているが、可能な限りニーズに対応する努力をし、もっと勉強し努力したい		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	花見や祭りなどのイベントに参加できるよう支援している。地域のボランティアの協力もあります。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月に2回往診医の診療を受けている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護と情報は共有され、月2回の看護を受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携先の医療機関と入退院の情報交換を行い、情報を共有している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化や終末期については主治医の支援を頂き、早期に対応をしている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	対応手順書、緊急連絡網を作成して、定期訓練も実施している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	毎年、春、秋の2回訓練をしています。職員もそれぞれ対応ができるようになりました。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	輝としてのマニュアルを利用して入社時に研修をしている。接遇マニュアルを重視し、笑顔とハートのある介護を目指している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者に接する大事なことは利用者の考え、気持ち何を望んでるかを知ることです。職員はそこを支援しています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	笑顔と言葉使いを重視して同じ目線で話をすることを指導している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	お化粧品や身だしなみの支援を行っている。理髪は2ヶ月に1回行っています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	準備、片付けは利用者と共にできるだけ行い、季節感のある献立を提供している		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	日々の日計表で水分摂取量のチェックを行い支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後は必ず口腔ケアを実施している。 また訪問歯科の利用もあり、十分気をつけている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	出来る限り自立した排泄が行えるようトイレまで手引き歩行で支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	消化のよい食事の提供、牛乳、ヨーグルトなどの提供、腹部マッサージなどで予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	本人の希望で入浴できるが、入浴日、時間は決めている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	騒音など環境には十分気をくばり安心して安眠ができるように支援をしています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個々に薬箱をつくり、朝、昼、夕に分けて保管している。誤薬がないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	近隣の方たちのボランティアによって麻雀、将棋、クラフト、カラオケ等で楽しく過ごしている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	初詣、節分、花見、鯉幟、菖蒲、夏祭り、菊展などバスで出かけ鑑賞したり、おやつを戴いたりして楽しんでいます		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お小遣いは施設で管理しているが、本人と一緒に買い物に出かけている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話は施設の物を使用している。手紙、送りの等も施設で手配している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	常に清潔を保ち季節感を採り入れて工夫している。手作りの作品を展示しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブルの配置または花を飾るなどの環境美化に努めている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自分の使い慣れて家具や好みのものを活かして生活している		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手すりの設置、表示等は大きく表示を行い自立を支援している		

平成29年度

目標達成計画

事業所名 グループホーム東林間 輝

作成日： 平成 30年 4月 10日

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1		利用者への接し方	1. 利用者の気持ちをくみ取り対応する 2. 同じ目線で対応する 3. 優しく笑顔で対応する 4. 利用者を尊重しハートで接する	入社時にマニュアルで研修するが 慣れてくるとつい、気のゆるみ がある為1年に1回は研修する	継続ヶ月
2		事故防止について	1. 転倒防止に努める 2. 口腔ケア等注意して介助 3. トイレ使用時の介助に注意 4. 入浴時・入浴後介助の気づき	気配り不足により転倒事故が 起きますので、チーム会議等 で常に研修をしている	継続ヶ月
3		服薬について	1. 日付・時間を確認する 2. 完全に吞み込めたかの確認 3. 他人の薬との間違い	気のゆるみから誤薬が発生 する為十分注意して誤薬の ないよう指導している	継続ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月